

## 平成28年度 英語が好きになる学校づくり 取組報告書

事務所名	盛岡	学校名	滝沢市立滝沢南中学校	TEL	019-687-2021
------	----	-----	------------	-----	--------------

英語が好きになる生徒を育成する「学校づくり」  
～みんなで英語を楽しみ、身近に感じられる「きっかけ」をつくる取組みを通して～

### 【ねらい】

#### 1. 「英語が好きになる生徒」を育てる。

コミュニケーション能力を高める「授業づくり」のために、英語科全員で本校の課題を共有し、同じ視点で授業づくりに取り組んだ。

その結果、「これからも英語に関わっていこう！」「英語を窓として世界とつながっていこう！」と生徒が感じる「きっかけ」となるような授業づくりや授業改善に取り組むことにした。

#### 2. 「英語が好きになる生徒が育つ学校」をつくる。

外国語教育の在り方を職員全員で考え、学校全体での「英語が好きになる生徒を育て、支えていくための実践」が必要と感じ、英語科を中心に、他の職員の理解と協力を得て取り組んできた。

### 【具体的な取組】

#### 1. 授業づくり、授業改善

##### (1) 本校の研究テーマにそった授業展開

##### ① 本校研究主題：『共に学び、生き生きと表現する生徒の育成

—「自分の考えを持つ」「互いに交流する」「互いの考えのよさに気づく」指導過程を通して—』

##### ② 研究主題の設定理由

- ・本校の生徒は穏やかで素直であるが、言語の知識量と理解力に課題があり、学年が進むにつれて学力の分布の二極化が強まる傾向にあった。基礎的・基本的な知識・技能の定着に多くの時間が必要になると予測された。
- ・課題として、次のような点が挙げられた。【第1期小中ジョイントアップスクールより】
  - ア 思考力・判断力・表現力の育成のための時間確保が不十分であること。
  - イ アンケートから、他者とのかかわりが希薄であること。
- ・以上のことから、各教科・全領域において、生徒が「自分の考えを持つ」「互いの考えを交流する」を指導過程の「課題解決場面」に位置づけた授業を行うことで、生徒一人ひとりの『思考力・判断力・表現力』を鍛えることが大切であると判断した。加えて、『互いに高めあい課題を解決しようとする力』を育てたいことから、「互いの良さに気づく」を指導過程に取り入れる必要があるとも考えた。

##### ③ 英語科の指導過程におけるポイント

上記3つの場面を、英語科では次のように捉え、実施してきた。

##### ・「自分の考えを持つ」 = (思考力・判断力)

学習の見通しを持つ。本時の学習課題を解決するために必要な表現や情報などを理解して、適切に表現する。

##### ・「互いの考えを交流する」 = (判断力・表現力)

学習課題を解決するための学習活動。生徒個々で課題解決に向けて取り組んだ内容について他者



## 2. 校内体制での実践

### (1) 英検推奨、受検率UP大作戦

#### ① 受検率

H27 第3回目・・・ 6.6%

H28 第1回目・・・ 12.2%

第2回目・・・ 12.3%

※前年度比 約6ポイントUP (約2倍)

#### ② 合格率

級	第1回	第2回
2級	50% (1人/2人)	
準2級	13% (1人/8人)	50% (6人/12人)
3級	35% (15人/43人)	30% (14人/46人)
4級	63% (12人/19人)	71% (15人/21人)
5級	100% (13人/13人)	100% (7人/7人)

### (2) 国際理解推進コーナー

本校 ALT の Daniel の協力で、母国やこれまで旅行した国の紹介ポスターのコーナーを設置した (→図1)。また、異文化理解のために、「世界時計」や「ハロウィーン」、「クリスマス」などの紹介コーナーを設置した。(→図2、3)



← (図2)

世界時計～日本との時差について



← (図1)



Halloween の紹介

### (3) 英語表示

生徒がいつも目にする場所に、序数や月名、曜日などの表示を掲示した。

### (4) 英単語王 (専門委員会と連携)

1回目は、英語科計画で授業において実施。2回目は、学習委員会主催で、全校で同じ問題に挑戦し、満点者名を掲示した。

学年	回	第1回	第2回
1年生		21.7% (51人/235人)	28.1% (66人/235人) 6.4%UP
2年生		48.9% (103人/215人)	33.9% (73人/215人) 15%DOWN
3年生		65.4% (157人/240人)	69.2% (166人/240人) 3.8%UP

### (5) ALTとの交流 (Letter Box)

本校ALTの Daniel がアイデアを生かし、手紙を入れる「郵便ポスト」の役目をする箱を作成した。日本語が入ってもいいから、とにかくいろいろな話を生徒と手紙で交流したい、という本人の要望から実現したものである。生徒は、簡単な英語を使い、Daniel に聞きたいことや自分の伝えたいことを手紙に書いて、交流した。1人ひとりに返事がもらえ、モチベーションになっている。



## (6) Communication Card

当初は、ALTとのコミュニケーション目的で計画したものである。(会話ができればカードにスタンプまたはシール1つをもらうというシステムだった。)しかし、「学校全体」で生徒のコミュニケーション能力を高めたいと考え、週一回、**朝読書の時間帯を「コミュニケーションタイム」と命名し**、担任や副担任も巻き込んで英会話を行う時間とした。



## (7) JOINT-UP事業

滝沢市の同学区の小中学校で行われる事業であり、今年度は、篠木小学校で授業公開が行われた。小学校の外国語授業を参観できる貴重な機会となった。

## (8) 国際交流教室の実施 (未実施)

地域の英会話スクールなどの外部機関に協力を依頼し、外国の方々とのコミュニケーションを図る時間にしたいと考え計画した。しかし、スケジュール調整がまだできておらず、課題となっている。

## 【成果】

### (1) 英語科部会の充実と授業改善の取り組み

- ①互いの授業を見合ったり、同じ取り組みを共有し合ったりすることで、**支え合いながら指導力向上を目指すことができた。**
- ②「使える英語」「役に立つ英語」を身につけさせる【指導実践】を積み重ねることで、**授業改善に対する教師の意識がさらに高まった。**

### (2) 英語を身近に感じ楽しむ学校環境づくり

- ① 掲示が増え、学校全体が「**英語であふれている**」環境作りができた。そのことで、生徒が日常的に英語に触れる機会が多くなり、英語への意欲・関心が高まったように思う。
- ② 英語科教員だけでなく、ALTをはじめ、多くの教員や生徒会との協働的な取り組みが相乗的に効果をもたらし、英語を楽しむ環境や雰囲気をつくり出すことができた。

### (3) 生徒の変容

- ① 掲示を見ては、**声を出して友達同士読み合ったり、確認したりする姿**があった。
- ② 生徒会活動の啓発ポスターにも**英語がふんだんに使われる**ようになった。
- ③ 教育実習生の先生の紹介式で、生徒会長が「英語」を使い、本校の紹介(おお!という生徒の反応あり)を行なうなど、**英語を生かそう、使おうとする生徒の意識の高まり**を感じた。
- ④ 授業では、**挙手・発言が以前より積極的**になり、回数も多くなった。
- ⑤ 自己評価カードを使うことで、単元のゴールを確認し、見直しを持つことができた。また、授業での振り返り記入欄では、**前向きな、そして意欲的な内容**が増えてきた。

(【前】「受け身の過去形について思い出した。」「現在完了形がよくわからなかった。」「難しい。」  
⇒【現】「make A B」の文が理解できたし、自分の好きな有名人を紹介する時にとても役に立つ表現だと思った。これからの生活でも使っていきたい。」「まだ十分理解できていないので、復習をしっかりと使えるようにしたい。」「今日は、たくさん発言することができた。これからも続けたい。」「あまり挙手できなかった。次こそは!」)

- ⑥ 学校全体で取り組むことで、「みんなで英語を使えるようになろう!」「みんなで楽しもう!」という雰囲気~~が~~芽生えている。英語科以外の先生方が英語を使おうとする姿は、生徒たちにとっていい刺激になる。「生徒の心に、火をつける!」
- ⑦ 英検や、単語テストなどの活動を通し、「挑戦しよう」という、学習意欲が育ってきている。